

- 出品資格：五段以上。●用紙サイズは半切縦か角半。
- A・B課題は同時出品可能。同時出品の場合は出品券の下部にA・Bを明記すること。
- 条幅出品券を作品の右下に必ず貼付すること。(作品の裏右下には鉛筆で段位と氏名も忘れず記入)

今年も水明書展が近づいてきました。

暑い中の作品制作は大変ですが、たくさんの方々が京都市京セラ美術館に並ぶことを期待しています。

今回、A課題の和歌を二行で書かれた作品で、行間が狭いと感じるものが多く見られました。構成上、寄せたい時は別ですが、基本の二行書きは中央の行間をあげ、最後の五音を緩やかに右へ傾かせていきます。同じ大きさの文字で書いても、余白の取り方により作品の見え方が違ってくると思います。お試しください。

かな部 次号課題

A 恋<sup>こひ</sup>すてふわが名<sup>な</sup>はまだき立<sup>た</sup>ちにけり

人<sup>ひと</sup>知<sup>し</sup>れずこそ思<sup>おも</sup>ひそめしか (壬生忠見)

B

砂丘<sup>さこう</sup>灼<sup>や</sup>けつひにひとりの影<sup>かげ</sup>尖<sup>とが</sup>る

(山口草堂)

・鳥取砂丘での句。炎天下、灼けた砂丘を歩いて行く。人はいない。己れの影だけが砂の面にくつきりと尖ってついているのである。

優秀作品

〈師範・準師範の部〉

中川千賀子 変化に富み、潤いのある渴筆が魅力的。

山路香溪 骨力のある線質で自在な運筆が素晴らしい。

〈修士以下の部〉

天川青扇 筆勢あり。特に渴筆の線が良く見えたえあり。

田麥知風 自然な流れが美しく、清楚な作。

西尾珂峰 字間、墨色の変化があり、安定感あり。

金城翠苑 穂先を利かせ、軽快なリズムで書き進められた。

中岡順子 墨量の変化が自然で、淡い墨色でぐいぐいと書き進めている。

寺尾照華 余白が生きるちらしで、大きく見える作となった。

八木清子 二行目の寄せ方が上手く、縦への流れが作品をスッキリさせている。

奥本貴祥 長短、大小、広狭など、文字の工夫が多彩である。

小林緑萱 墨色が美しく、味わい深い力作。

児島青恵 構成がよく、見せ場の躍動感は見事。

有馬雅子 二行書きの書き位置がよく、丁寧でまとまりの良い作。

木村恭翠 かな作品に合った漢字の字形が際立っている。

海野雨泉 変体かなを多用せず、シンプルな用字で伸びやかな作品になった。

中川雪湖 直線が冴え、墨色も美しい。

河合映香 懐が広く明るい字形で好感。